

北極圏旅行記 2017-2018 冬 (10)

～12/28 オーロラの変化～

お茶の水女子大学附属小学校 田中 千尋

この日は、天気予報では「曇り」だったが、実は非常に薄い雲(巻層雲)しか出ていなかった。シーイング(空の透明度)は悪いものの、星も月も比較的クリアで、どうやらオーロラは見えそうだった。



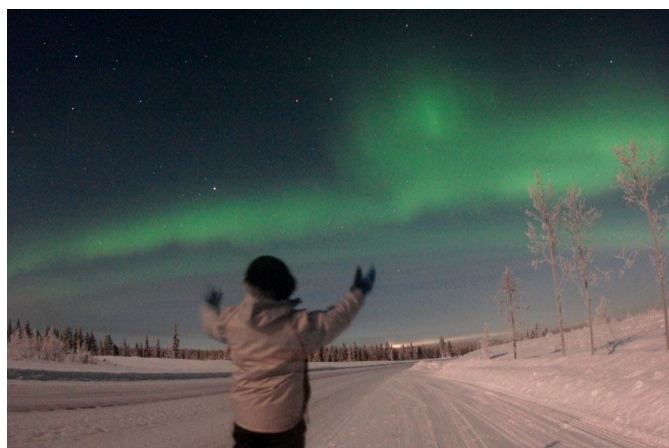
前日は森の中で撮影して、手前に針葉樹の木々がある構図だったので、今回はもっと開けた場所で撮りたかった。明るいうちにロケハンをしておいたポイントで、さっそく撮影を始めた。ここは疎林はあるものの、北側が非常に開けていて、オーロラの全体像を観測するには、大変適した場所である。

到着時にはすでにオーロラが出現していた。上の写真はその左(西側)3分の1の像である。地球規模で見たオーロラは、極地方を取り巻くリング状の実体である。地上からは、地平線に阻まれてリングの全体像は見えない。その「弧の一部」を切り取って見ているというイメージである。

ページ下の写真は、地上から見えるオーロラの全体像である。超広角レンズでも全体は収まらないので、3枚の写真をつなげて作ってみた。緑一色に見える虹のようなこの姿は「アーク・オーロラ」と呼ばれ、オーロラが静穏な状態の時の典型的な姿だ。よく見ると、オーロラの帯が、画面奥(北側)に向かって、幾重にも重なっている様子がわかる。



オーロラの活動が活発になると、アークの一部が持ち上がるように見えたり、二重になったり、縦縞構造(オーロラ・レイ)が顕著になってくる。



この時、オーロラに向かってモーゼのように両手を上げて「オーロラよ、いでよ!」と叫ぶと、効果的だ。





(3 ページ目に拡大写真)

オーロラが更に活動的になると、アークの形は崩れて、自由自在に形を変えるようになる。上写真は、バンドオーロラが「つ」の字に変化した様子だ。



撮影場所は、国道脇の安全なパーキング（駐車帯）である。夜間はほとんど車が通らないが、シャッターを開けている時に車が通ると、写真全体が真っ白になって失敗に終わる。

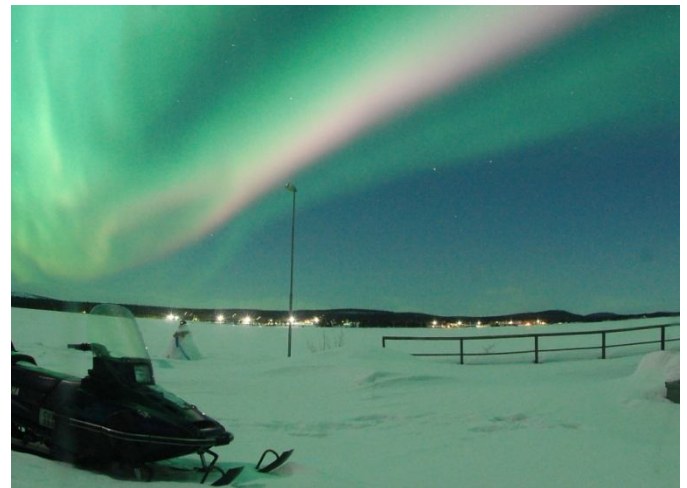


三脚は日本から持参した。雪の上に置くので、なるべく重い三脚のほうが安定するが、移動時に持ち歩くのが大変だ。防寒具は「上州屋」（釣具の専門店）で買った。ちょっと重いけど、防寒性能は抜群。



(3 ページ目に拡大写真)

オーロラが更に活発になると、バンドの下端が桃色に染まる。この姿のオーロラを「タイプ B のオーロラ」「タイプ E のオーロラ」と呼び、オーロラ観望者にとっては、一番見たいオーロラの姿である。



Type-B / Mar. 2012 / Porjus Sverige



Type-E / Feb. 2013 / Porjus

タイプ B と E のちがいは、動きの有無にある。激しい動き（カーテンを揺らしたような動き）をしている場合をタイプ E と呼ぶ。今回のものは、非常に激しく動いていたのでタイプ E と判定できる。

